

海岸林での標識調査

杉野目 斉

1993年9月より海岸の防風林で実施している標識調査のうち、今回は春期と秋期の調査結果について簡単に報告する。

《概要》

調査地は宮城県仙台市若林区種次字中野(38°11'N, 140°58'E)に位置する、江戸時代に仙台湾岸に植栽されたクロマツを主とした林で、林内には他にカスミザクラ、イヌシデ、シロダモ、アオキ、ヤブコウジ等が見られる。調査地付近でのクロマツの樹高は15m以上と推定される。春期調査は4月下旬～5月上旬(大型連休の期間およびその前後、調査日数8～13日/年)、秋期調査は9月中旬～12月上旬(週末ごと2～3日づつ、調査日数14～28日/年)実施している。調査にはかすみ網(長さ12mおよび6m)を用い、網は林内を流れる水路沿いの草地と林との境(春秋)、林内にある沼の周囲(春)、林と田園との境(春秋)など林縁部に設置している他、付近の小河川沿いのヨシ原(秋)にも設置している。調査は基本的に日の出前から日没後まで行い、捕獲効率を上げるため、秋の調査では状況によって鳴き声をテープレコーダーで再生して誘引を図っている。使用しているのはアオジ、メボソムシクイ、キビタキ、カラ類(地鳴き)、ノゴマ(夜間)、ルリビタキ等である。なお、春の調査時には特別な誘引を行っていない。

《結果》

春期(1994～2004年)および秋期(1993～2003年)に標識放鳥した個体は81種10709羽(春43種2168羽、秋78種8541羽)であった。このうち林縁部だけで調査を行っている春期では、最多放鳥種はアオジ(総放鳥数の21.3%)、以下メジロ(17.0%)、センダイムシクイ(8.4%)、キビタキ(7.7%)、エゾムシクイ(7.6%)であった。いわゆる夏鳥のうち放鳥数が比較的多い種(センダイムシクイ、エゾムシクイ、キビタキ、オオルリ)の飛来は4月中旬に既に始まっており、5月上旬にかけ個体数の増加が見られ、5月中旬以降に減少すると考えられた。春期および秋期で新放鳥日から6ヶ月以上経過後の再捕獲は20種249件あり、最も多いものはアオジ(84)、以下シジュウカラ(47)、ウグイス(47)であった。初放鳥日から5年以上を経過しての再捕獲例としてシジュウカラ(7年3ヶ月他)、アオジ(6年7ヶ月他)、コゲラ(5年0ヶ月)が得られた。5km以上離れた地点との移動記録(回収)は6種で得られ、そのうち県外回収が多いアオジはサハリン(1例)、北海道東部(7例)、北海道江別市(1例)、岩手県宮古市(1例)、神奈川県小田原市(1例)、静岡県沼津市(1例)放鳥の個体を回収し、種次放鳥個体は埼玉県入間市(1例)で回収された。今後更に調査を継続し、種ごとの帰還率、性・齢による渡りの動向の違い等について検討したい。

